

台湾人中級日本語学習者の作文に見られる  
誤用について

王 敏東・仙波 光明

Errors made in compositions by intermediate-class  
Japanese learners in Taiwan

Ming-tung WANG ; Mitsuaki SENBA

**Abstract**

Examining the errors in compositions, which reflect the overall capability in handling Japanese by learners, provides unique ways of crediting the learning efficiencies and levels of the learners.

This paper critically examines the errors made in 62 compositions by 12 intermediate-class Japanese learners in Taiwan, and compares the outcome with literature data.

The findings include (1) the errors made are largely bound with the structure and grammar of learners' mother language; (2) the frequently conducted grammatical errors are repeatedly made; (3) errors are made on items the learners should have learned in class. Hence, the lecturers should repeatedly emphasize in class those items the learners frequently make the errors. Also, within all physical constraints, the lecturers should try to properly allocate in syllabus those items that are hard to comprehend by learners.

1. はじめに

誤用分析は学習者における目標言語の学習状況を生で観察できる。学習条件

が近い<sup>1</sup>複数の学習者に見られる共通の誤用は、その誤用を起こした根本的な原因を検出することにより、教学の改善策を提出できると考えられる。

## 2. 先行研究

誤用分析は 1970 年代より盛んに行なわれてきており、以来、様々な角度からいろいろな研究がなされてきている。たとえば誤用の分類について、森田 (1986)<sup>2</sup>は「発想に関する誤用の問題」「表現に関する誤用の問題」「語義に関する誤用の問題」「語の使い方に関する誤用の問題」「文型に関する誤用の問題」「動詞の自他に関する誤用の問題」「受身表現に関する誤用の問題」という 7 つのテーマを取り上げて検討を進めている。また、佐治 (1992) は「文字・表記の誤り」「語形の誤り」「誤の意味用法の誤り」「文法上の誤り」「表現の問題」の面から誤用例を検討・分析している。さらに、吉川 (1997) は、誤用を「発音の誤り」「表記の誤り」「語彙の誤り」「文法の誤り」「表現の誤り」に分け、その原因を「母語の干渉」「以前に習った外国語の干渉」「それまでに習った日本語の事項の影響」「不十分な理解」「不十分な説明」「類推のはずれ」「考えすぎ」「その他」に分類している。なお、市川 (1997) は主に外国人<sup>3</sup>の作文より誤用例を抽出し、「ムード」「テンス・アスペクト」「他動詞・自動詞・ヴォイス」「やりもらい」「取り立て助詞」「格助詞・連体助詞・複合助詞」「連用修飾・連体修飾」「従属節」<sup>4</sup>に分け、2000 年にはさらに専ら接続詞（「いわば」、「結局」などの 30 項目）と副詞（「あまり」「いちばん」などの 50 項目）について、「脱落」「付加」「誤形成」「混同」「位置」と、「その他」という 6 種類に分類し、詳しく分析している。

あるいは、中国人（日本に留学している中国大陸の人）を対象として、その日本語学習における母語の影響について詳しく論じたものに、馮 (2000) がある。また、山崎 (2006) も中国語母語話者の作文に見られる誤用の研究につい

<sup>1</sup> たとえば母語、学習時間数、使用された教材など。

<sup>2</sup> 森田良行 (昭和 60 年初版・明治書院) の『誤用文の分析と研究—日本語学への提言—』であるが、筆者が参考したのは平成 4 年の 6 版である。

<sup>3</sup> アメリカ、カナダ、ロシア、フィンランド、ニュージーランド、インド、インドネシア、タイ、マレーシア、ベトナム、ブラジル、中国大陸、台湾、韓国などが含まれている。

<sup>4</sup> 従属節をさらに「引用節」「名詞節」「連体修飾節」「理由節」「トキ節」「条件節」「逆接節」「目的節」「並立 (継起) 節」に分けられている。

て、主に『日本語教育』（日本語教育学会）に掲載されている論文を中心に紹介している。

それに対し、近年台湾では、主に台湾人日本語学習者（大学生）の作文に観察できた誤用例を調べて分析した研究がいくつか見られる。このような研究は台湾人日本語学習者に最も身近な問題である。以下、このような、台湾で発表されている誤用に関する論考を紹介する。

#### ・鄧（2005）

鄧（2005）は自他両用と認められている日中同形動詞について、調べた結果、自他のどちらかの一方に偏って使われるものがあることを報告した。

#### ・鄧（2006）

鄧（2006）は、日本語学習歴5年以上の台湾人日本語学習者の作文226編で用いられた連体修飾の「の」について検討した。連体修飾の「の」が用いられた1545文に、誤用と判明されているのは17.02%という高い数値だったようだ。鄧（2006）はさらに「「の」の脱落」（24.7%）、「「の」の付加」（22.8%）、「「の」の誤選択」（32.7%）と「「の」以外の誤選択」に分け、綿密に論じている。とくに最も多く見られた「「の」の誤選択」という形式の誤用は、山田・中村（2000）による中級学習者の誤用における検討とは異なった結果も示されている。

#### ・河村（2007）<sup>5</sup>

---

<sup>5</sup> このような日中同形語に起因する誤用は近年注目されてきている。たとえば、文化庁（1978）が『中国語に対応する漢語』を刊行し、日中同形同義語（Same）、同形だが日中における意味のずれがある語（Overlap）、日中同形異義語（Different）と、日本語だけにあるが中国語にない漢語（Japanese）に分類されている。陳（2007）は日本文化庁のこの分類に基づき、さらに中国語にしか存在しておらず、現代日本語に対応できない第5種のChinese（たとえば「掃墓」など）を足しながら、台湾人学習者の作文における漢語語彙の習得について考察したことがある。一方、佐治（1992）もたとえば「有利」「過剰」など日中両言語における意味が同じだが、品詞が異なっている語の誤用について触れている。また、日中同形語に起因する誤用は日本人が中国語を学習する場合にも見られる（たとえば呉他（2007））。

川村(2007)は「獲得」「発揮」「実施」「提出」という4つの日中同形同義語を中心に検討している。やり方としては、学習者の作文に出てきた誤用についての検討でなく、各動詞について6個?の設問を作り、中国人母語話者にその正誤を判断してもらうという方法がとられている。

・ 陳(2007)<sup>6</sup>

陳(2007)は東呉大学における学習者1人が3年間半にわたって書いた作文30編に見られる漢語について検討した。品詞別と対応関係に見る漢語語彙の使用回数が把握されたうえ、その誤用(母語との影響関係など)も論じられている。同一人における長時間にわたる追跡調査(縦断的な研究)という点で、一般によく利用されている一遍に数多くの学習者の作文から誤用例を抽出する、というやり方とは異なっている。

・ 盧(2007)

前述した陳(2007)における研究プロジェクトの一環として、盧(2007)は東呉大学の学習者37人が6学期という期間内(1人あたり30回)に書いた作文をあつめ、そのうちの1人を例に、作文に使用されている副詞及び、副詞の誤用について検討した。

・ 本稿が検討する誤用

本稿は今回あつめた12人の学習者による62編の作文における誤用について検討する。まず誤用を分類し、さらに先行研究で論じられている誤用の様子とあわせて検討する。ただし、吉川(1997)に取り上げられている「発音の誤り」については、本稿の目的が学習者の作文における誤用を検討することにあるため、漢字の振り仮名や語の綴りなどに限って検討する。

### 3. 調査について

調査対象は、主に教室指導環境で日本語を学習してきている台湾人中級学習者12人である。全員が2007年6月に台湾のM大学応用日本語学科の2年生で、いずれも母語が中国語である。日本語の使用は学校以外、ほとんどなしという

<sup>6</sup> 他に陳(2006)による学生の作文における使用語彙についての論考もあるが、誤用に関しては少ししか触れられていないので、ここではとくに取り上げないことにした。

状況だった<sup>7</sup>。

この12人によって、1学年という期間内（2006年9月～2007年6月）に、平均2週間に1回書かれた作文を検討したものである。以下、学生の基本資料・日本語の学習歴、作文のテーマについて述べる。

### 3. 1 学生に関する基本情報・日本語の学習歴

男性1人と女性11人のあわせて12人である。いずれも2007年7月現在M大学日本語学科の2年生である。

大学1年で履修した日本語に関する科目は「読本」（週に4時間）、「会話」（週に4時間）、「ヒヤリング」（週に2時間）である。使用教材は、読本が『新実用日本語 読本』（呂恵莉・康妙齡・周明毅編著、1996、銘薪出版）、会話が『新実用日本語 会話』（呂恵莉・康妙齡・周明毅編著、1996、銘薪出版）、ヒヤリングが『毎日聴力日本語 50日課程 初級』（太田淑子等共著、2000、大新書局）<sup>8</sup>である。2006年6月という1学年目の末までの既習項目としては用言の「な形」「て形」「た形」「辞書形」「ば形」「可能形」「連体修飾」「丁寧体・普通体」などが含まれる。なお、カリキュラムで「作文」の授業は2年生からの2学年（いずれも週に2時間の必修科目）に配置されているが、数文程度の翻訳（「読本」、「会話」）や、ロールプレーにおける脚本の編纂（「会話」）は1年生の時から宿題の形でよく練習してきている。

また、大学2年では「中級読本」（週に4時間）、「中級会話」（週に4時間）と「中級ヒヤリング」（週に2時間）以外に、「文法」（週に2時間）と「作文」（週に2時間）という2つの必修科目が加わっている。それに加えて、「文型」という週に2時間の選択科目を取っている人がほとんどである。教材は「読本」、「会話」のいずれも1年の時に用いられていたシリーズの『新実用日本語 読本Ⅱ』（楊焜雯・顔瑞珍編著、1997、銘薪出版）、『新実用日本語 会話Ⅱ』（呂恵莉・康妙齡・周明毅編著、1996、銘薪出版）である。ただし「読本」はそれに加えて2年生の下半期から『ニューアプローチ中級日本語』（小柳昇、2003、宇田出版）を使用するようになっており、2007年6月現在第15

<sup>7</sup> 2007年夏、学習者の性別、年齢、母語、日本語の学習時間、履修科目、教室以外で日本語を使用している状況等を含む基本資料については調査済み。

<sup>8</sup> 「会話」については3つのクラスに所属されるが、教材は共通のもので、中間試験と期末試験も共同試験である。なお、2年生の時も状況は同じである。

課まで勉強している。一方、ヒヤリングは教師自製の教材、「文法」は『実用日語語法』（鄭婷婷・邱栄金、2005、致良出版）、「文型」は『完全掌握2級文法』（アジア学生文化協会留学生日本語コース著・林進（他）訳、2004、大新書局）が使われている。2007年6月という学年末までには基本的に各文法項目の学習は終わっており<sup>9</sup>、中級の文章を読ませている。

もともと、作文という授業は、まず教師がプリントを用意し、語彙、文法などを説明してから、学生に作文を書かせるというように進められる。作文のテーマは教師がはっきりと示すこともあるが、大抵ある特定の範囲を取り上げ、その範囲内に属するテーマを学生は自由に選ぶことができる。たとえば、「友達」に関するテーマの作文には、「私の友達」「友達と私」「友達と比べる」「私と親友の好きなアイドルタイプ」などと題されたものがあつめられている。また、字数については前期はとくに規定されていないが、後期からは500字前後と定められている。表記に関しては漢字に振り仮名を振るよう指示されている。なお、作文を書く際、辞書などの使用やクラスメートとの相談は許容されている。

### 3. 2 調査方法

調査方法は前記のように、1学年（2006年9月～2007年6月）という期間内の学習者の作文をあつめ、誤用の部分について検討する。学習者の意思により提供されている作文の本数とテーマはそれぞれ異なっており、詳細は次表（表一）のようになっている<sup>10</sup>。

<sup>9</sup> たとえば、必修科目の「文法」という授業では品詞別（「名詞（代名詞、数詞を含む）」「動詞（補助動詞、自・他動詞、アスペクトなどを含む）」「い形容詞」「な形容詞」「助動詞」「副詞」「接続詞」「助詞」）で紹介している。また、「句型（文型）」という選択科目の授業では主に日本語能力試験における2級文型を教授し、2007年6月末（2学年末）までは2級文型全部教授済みであった。

<sup>10</sup> テーマに関しては主に今回提出した作文の編数が最も多くの場合（学習者⑫）の資料に基づいて作成した。また、いずれの学習者にも、提供されている作文を、研究及び教学に用いる同意を取得した。

表一

期	テーマ	学習者												合計
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	
前期	自己紹介	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	1
	家族自慢	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	1
	鈴木さんへの手紙	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	1
	千鈞一髮	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
	来年から始めたいこと	-	○	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	2
	今までで、一番気持ち悪かったこと	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	自分が子供にさせてあげたいこと	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
後期	私が住んでいる家	-	-	-	○	○	-	○	-	○	○	○	○	7
	これまでの旅行先で一番好きなどころ	-	○	-	○	○	-	○	○	○	○	○	○	9
	友達と私	-	-	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○	9
	体罰	○	-	-	○	○	○	-	○	○	○	○	○	9
	日本人についてのイメージ	-	-	-	○	○	-	○	○	○	○	○	○	8
	日射病について	-	○	-	○	-	○	○	○	○	-	○	○	8
	出生率の低下の原因	-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	-	2
	平成 13 年度国民生活白書	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	1
合計	1	5	3	6	5	4	6	4	7	6	6	9	62	

このように全部で 12 人の学習者による 62 編の作文をみつめた。

### 3. 2 誤用分析

まず今回みつめた 62 編の作文に現われた誤用を大きく「語」、「助詞」、「文法」、「表現」、と「その他」に分類し、検討を進める<sup>11</sup>。

<sup>11</sup> 他に改行の位置、促音・拗音・括弧がそれぞれ 1 マスを占めていない間違いや、文体が統一されていない(普通体か丁寧体かのどちらに)、といった不適切な例も観察された。

## 3. 2. 1 「語」レベルの誤用

今回あつめた「語」レベルの誤用は次表（表二）のようになっている。網掛けの部分（ふりがなが振られた語は網を外す）が間違ったところで、それに対して修正した部分を一番右の欄にそれぞれゴシック体で示す。また、1つの文に2つ以上の間違いがある場合は、その類に相当する誤用の部分に下線を施した。なお、紙幅の都合で列挙にとどまっている。以下も同様である。

表二

		誤	正
漢字の表記	中国語文字の使用	化粧/化妆、部份、絶対、気温、 <u>食欲、臭</u>	化粧、部分、絶対、気温、食欲、 <u>点</u>
	同音語	<u>熱い</u>	暑い
成分の倒置		<u>一髪千鈞</u>	千鈞一髪
読み方	漢字の読み方	じゅう こと がい どう とつ 重要性、何事、4階、運動、突 にしゃつ かん ね も 然、日射病、参加、熱つ、気持悪 はい きょ しょう い、気に入る、興味、一緒に、 どう じつ ち だい み 適当、実現、地元、大切、皆ん けん な、大喧嘩	じゅう こと がい どう 重要性、何事、4階、運動、 とつ にっしゃ か ねつ もち 突然、日射病、参加、熱、気持 い きょう しょ 悪い、気に入る、興味、一緒に、 どう じつ じ たい みな 適当、 <u>実現</u> 、地元、大切、皆、 げん 大喧嘩
	発音	小さいころ	小さい頃
	外来語	インターネット、キター、タイプ、ハサンム、ロリン	インターネット、ギター、タイプ、ハンサム、ローリング
品詞		たまには <u>喧嘩</u> でも、私は一生を通して、友達を大切にしようとしている。 一緒に住んでいなくても、 <u>心配</u> しない。	たまには <u>喧嘩</u> することがあっても、私は一生を通して、友達を大切にしようと思っている。 一緒に住んでいなくても、 <u>心配</u> ない。
口語/文語		やっぱり、とか、好きじゃない	やはり、など、好きではない
古語かどうか		たなごころ	手の平
指示詞（コ、ソ、ア）		前は彼女に聞いて、日本にいる時、 <u>あんな</u> 状況…	前彼女に聞いたら（または“～たところ”）、日本にいる時、 <u>そんな</u> 状況…



		私はすぐそこを離れました。あれから、学校の先生は私に…	私はすぐそこを離れました。それから、学校の先生は私に…	
		…。あそこで旅行すれば、…	…。そこで旅行すれば、…	
		…本を読んでいた。あの本の内容は…	…本を読んでいた。その本の内容は…	
自・他動詞		Aさんはいつも私より早く寝ることになっている。	Aさんはいつも私より早く寝ことにしている。	
		ちょっと休むと治すと思うのに…	ちょっと休むと治ると思うのに…	
副詞	陳述副詞	よく家族と会うことができませんが、…	あまり家族と会うことができませんが、…	
		だんだんギターを練習しませんでした。	だんだんギターを練習しなくなりました。	
	数詞	運動場を五回に走らされた。	運動場を五回走らされた。	
		運動場を10回走らされたりした…	運動場を10周走らされたりした…	
	他の副詞	気温がよく高い。	気温が高いことが多い。	
		突然に倒れる…	突然倒れる…	
		ある日、私はもう風邪をひきました。	ある日、私はまた風邪をひきました。	
		熱つはまたあります。	熱はまだあります。	
			楽しい遊べる	楽しく遊べる
	接続詞		小学生の時、国語テストの後で、漢字を間違えたら、10回ぐらいの罰として書かせた。それともテストの点数があまりよくない時…	小学生の時、国語テストの時に漢字を間違えたら、後で10回ぐらいの罰として書かされた。また(または“或いは”など)テストの点数があまりよくない時…
用語の選択		そんな話し方は必要でない喧嘩が避けられる…	そのような話し方で(または“なら”) unnecessaryな喧嘩が避けられる…	
		この小説も映画に作られた。	この小説も映画になる。	
		遅くまで寝る	遅くまで起きている	
		天気が熱く	気候が暑く	
		食欲が下がってなる	食欲が落ちてくる	
		現在の社会が不安全…	現在の社会が安全でなく…	
		毎年の夏は去年より…	毎年の夏は前年より…	
		見えるところは全部土地で…	見えるところは全部空地で…	
		病気が引き易くて、…	病気になり易くて、…	
		私は数学が下手なので	私は数学が苦手なので	
		親がストレスをたくさん集まっています。	親にストレスがたくさん溜まっています。	

	何の事、背面の形、病状、毎次、 恥ずかしい、安全感、大分の男性、 カラスの鳴る声、目上、水を遊ん だりする、きつと、福利	ごと 何事、後ろ姿、症状、毎回、恥 ずかしがり、安心感、大部分の男 性、カラスの鳴く声、目上の人、 水遊びをする、必ず、福祉
--	---	--

「語」レベルの誤用は「化粧」を中国語の「化粧」と間違えたような漢字表記の誤用<sup>12</sup>、「暑い」「熱い」のような同音語における誤用、語を構成する成分の倒置、読み方や綴りの間違い、外来語における対応する原語の違い、品詞にかかわる誤用、口語か文語かにおける使用上の妥当性、指示詞・副詞・接続詞における誤用、自・他動詞の混同、そして不適切な語選択などに分けられる。

母語に用いられている文字の誤使用は佐治（1992）などが前より指摘したことで、教授側及び学習側双方が間違いに対する意識を高めることで、避けられる誤りである。また、読み方の誤用と、口語・文語という位相上の差についても同じようなことが言えよう。

また、中国人母語話者の漢語品詞にかかわる誤用は近年たとえば、河村（2007）などが検討しているが、今回外来語（イメージ）においてもそのような誤用が観察された。

あるいは、指示詞（とくに中国語にソ、アの区別がなし、両方とも「那」で表わせる）、自・他動詞、副詞<sup>13</sup>（とくに陳述副詞）、接続詞などは先行文献（さらに外国人向けの一般の文法書）に広く触れられている。

### 3. 2. 1 「助詞」の誤用

「助詞」の誤用は「は」と「が」の混同、副助詞（「は」「も」など）の有無、場所を表わす「に」「で」「を」の区別、及び「他の助詞」の問題があげられる。詳細は表三のようになっている。

表三

	誤	正
は / が	私は一番好きなところはいつまでも賑やかな街だ。	私が一番好きなところはいつまでも賑やかな街だ。

<sup>12</sup> このような誤用について林（2002）の調査報告がある。

<sup>13</sup> 本稿では誤用が観察された文を‘ ’内に入れて標示する。

	私達は化粧することが好きだし、自慢する人が嫌いだし、物事の考え方は似ているから…	私達は化粧することが好きだし、自慢する人が嫌いだし、物事の考え方が似ているから…
	台湾の人が情熱的なものに対して、日本の人が恥ずかしいようだ。	台湾の人が情熱的なものに対して、日本人は恥ずかしがりのようだ。
副助詞	子供の時にそんな経験は誰でも一度や二度あるのではないだろうか。	子供の時にそんな経験は誰でも一度や二度はあるのではないだろうか。
	私に何とも言えない。	私には何とも言えない。
	口だけ勧めるの方が子供の心にも傷付けられないということだ。	口だけで勧める方が子供の心も傷付けられないということだ。
に / で / を (場所)	部屋に眠る	部屋で眠る
	部屋に待たされた	部屋で待たされた
	強い太陽の下で歩いたら、傘をさした方がいい…	強い太陽の下を歩くときは、傘をさした方がいい…
他の助詞	服の着るのも重要だ。	服を着るのも重要だ。
	そんな話し方は必要でない喧嘩が避けられる…	そのような話し方で (または “なら”) 不必要な喧嘩が避けられる…
	暑い日は肌が黒くならないように…	暑い日に肌が黒くならないように…
	先生は学生に処罰する…	先生は学生を処罰する…
	その人を罰金することになって…	その人に罰金を課することになって…
	先生は私たちに質問が答えさせた。	先生は私たちに質問に答えさせた。
	高校生になってから、日本人のイメージは「何の事も真面目だし、人に対して親切だが、性格がちょっと暗い」のような印象になってきた。	高校生になってから、日本人のイメージは「何事にも真面目だし、人に対して親切だが、性格がちょっと暗い」というような印象になってきた。
	水分の流失やすいから。	水分を流失しやすいからだ。
	前は五十音でも分からなくて、…	前は五十音も分からなくて、…
	怖い映画が見たり、…	怖い映画を見たり、…
	ベッドを変わっても、…	ベッドが変わっても、…
	私はその日に早く来ないと祈っている。	私はその日が早く来ないことを祈っている。
	私はその日に早く来ないと祈っている。	私はその日早く来ないことを祈っている。
	大学に入る	大学に入る
	子供が産んだら	子供を産んだら
	それがきっかけで、…	それをきっかけで、…
	いいと言う人がいれば、よくないと言う人もいる。	いいと言う人もいれば、よくないと言う人もいる。

いいと言う人にとって、体罰をすると人が反省できるという考え方を持っている…	いいと言う人は、体罰をすると人が反省できるという考え方を持っている…
両方は比べると、…	両方を比べると、…
都会は田舎と比べて、…	都会と田舎とを比べると、…
都会は田舎と比べて、…	都会と田舎とを比べると、…
都会は田舎と比べて、…	都会と田舎とを比べると、…
古いことから	古いからこそ
渋谷や原宿など様々な品物がある、…	渋谷や原宿などに様々な品物がある、…
クラスメートや先生や皆…	クラスメートや先生は皆…
「ハリー・ポッター」というの本	「ハリー・ポッター」という本
…というイギリス人	…というイギリス人
同じの所	同じ所
彼女と私と同じ…	彼女と私は同じ…
誰と話したい時、誰もいない。	誰かと話したい時、誰もいない。
日本の関係がある番組…	日本と関係がある番組…
昼で測った平均気温	昼に測った平均気温
私は毎日夜遅く、大体 12 時半まで寝る…	私は毎日夜遅く大体 12 時半に寝る…
朝 11 時まで寝ることにしている。	朝 11 時まで寝ることにしている。
近所の人も家に遠く住んでいたが、…	近所の人も家から遠くに住んでいたが、…
近所の人も家に遠く住んでいたが、…	近所の人も家から遠くに住んでいたが、…
私は何サークルも参加しないし…	私は何のサークルにも参加していないし…

「は」と「が」の区別は従来外国人が日本語を学習する上での難問の1つとされてきている。場所を表わす「に」「で」「を」も多くの文法書などに注意点として提出されている<sup>14</sup>。

「他の助詞」の問題としては、自・他動詞と関連している「が」または「を」の間違い、「は」を主語のつもりで別の助詞であるべきところに位置させた、というような誤用が目立っている。たとえば、方法・手段を表わす「で」を入

<sup>14</sup> ちなみに、場所を表わす「に」と「で」における誤用（前に現われる名詞）について迫田（2002：114-118）の考察がある。ただし、生の日本語としての使用率や、学習者が用いた教材における導入された順番や例文とのかかわりについては触れられていない。

れるべきところに、学習者は主語のつもりで「は」を使用している<sup>15</sup>。このような誤用は学習者の母語と関係深いと考えられる。つまり、これらの誤用が起こった日本語の文の多くを中国語に直訳したら、おかしくない、通常の中国語になるわけである。たとえば、‘そんな話し方は必要でない喧嘩が避けられる’を「那種講話方式可避免不必要的衝突」という自然な中国語に訳せる<sup>16</sup>。つまり、これらの日本語の誤用の多くは中国語の発想・構文に起因したものと思われる。

また、‘…というの本’、‘同じのところ’のような、鄧（2006）などが指摘した「「の」の付加」という誤用も観察された。

### 3. 2. 3 「文法」の誤用

本研究であつめた学習者における作文に見られる「文法」の誤用は、「形式名詞」、「文型」<sup>17</sup>、「テンス」、「アスペクト」の誤用に分けられる。その詳細を表四に示す。

表四

		誤	正
形式名詞	の (⇔ こ と)	…性格などがいろいろなの が分かり、… 立たせられるのは何回かぐ らいある…	…性格などがいろいろなこ とが分かり、… 立たせられたことは何回か ある…
	他の 形式 名詞	もし、日射病になったら、ま ず、涼しいところへ行って… ゆっくり休憩する。	もし、日射病になったら、ま ず、涼しいところへ行って… ゆっくり休憩すること(だ)。

<sup>15</sup> 他に、時間を表わす「に」（‘暑い日に肌が黒くならないように…’）や、対象を表わす「に」（‘健康に悪い’）を入れるべきところを主語のつもりで「は」を使用してしまった、という誤用も見られた。

<sup>16</sup> 他にたとえば‘暑い日は肌が黒くならないように…’は「熱天為了不要變黑」、‘健康上は悪い’は「健康上不好」という中国語を直接日本語に翻訳するつもりで犯した日本語の誤用である。

<sup>17</sup> 「文型」を1つの項目として立てたのは台湾では大学における日本語教育に使用されている教材は「文型」を中心に編纂されているものが多いからである（王（2001）を参照）。また、本稿「3. 1」で触れた学習者が履修している「読本」「会話」「文型」といった科目で用いられた教材はいずれも「文型」を軸に編纂されているものである。

		本の内容は…素晴らしい生活と敵と戦うことだ。	本の内容は…素晴らしい生活と敵と戦うというものだ。	
文 型	選 択	なんとなく昔のベランダが懐かしい と思っている。	なんとなく昔のベランダが懐かしく なる。	
		強い太陽の下で歩いたら、傘をさした方がい…	強い太陽の下を歩くときは、傘をさした方がい…	
		私と彼女が友達になるきっかけはどちらも日本語を勉強するのが好きだ。	私と彼女が友達になるきっかけはどちらも日本語を勉強するのが好きなことだ。	
		たまには喧嘩でも、私は一生を通して、友達を大切にしようとしている。	たまには喧嘩することがあっても、私は一生を通して、友達を大切にしようと思っている。	
		夏に注意するはずこと	夏に注意するべきこと	
		びっくりせることは…	びっくりさせられることは…	
		食べ過ぎるとか	食べ過ぎたり	
		食慾が下がってなる	食欲が落ちてくる	
		何もしないと疲れたり…	何もしなくても疲れたり…	
		隣の友達とおしゃべりすることや、教科書を持って来るのを忘れれば、	隣の友達とおしゃべりしたり、教科書を持って来るのを忘れたりすれば、	
		1点少なくなったら	1点少なかったら	
		私は体罰することが必要だけど、しすぎない方がいい。	私は、体罰も必要だけれど、しすぎない方がいいと思う。	
		子供達が悪子になりやすそうと思う。	子供達が悪い子になりやすいと思う。	
		第七冊が今年に出版する	第七冊が今年出版される	
		アパートで、外から見ると、…ちょっと古く感じられている。	アパートで、外から見ると、…ちょっと古く感じられる。	
	ある日、…私は…公園へ遊びに行こうと思いました。	ある日、…私は…公園へ遊びに行こうと思いました。		
	たら /ば/ と		来年になれば、毎日練習することにしました。	来年になったら、毎日練習することにしました。
			三年生になると、授業があまりなければ、…	三年生になったら、授業があまりなければ、…
	接 続		私は生まれたからずっとその家に住んでいる。	私は生まれてからずっとその家に住んでいる。
			好きな友達を見付けて、…	好きな友達を見付けて、…
		慶太君は太陽のような人だのに対して、涼平君は月のような人だ…	慶太君は太陽のような人であるのに対して、涼平君は月のような人だ…	
		誰にも一番仲のいい友達がいるのではないかと思う。	誰にも一番仲のいい友達がいるのではないかと思う。	
		びっくりせることは…	びっくりさせられることは…	
		好きなことがしられない。	好きなことができない。	

		思いつければ	思いつけば
		買うにした	買うことにした
		おもしろいだと思う。	おもしろいと思う。
		遠いだから	遠いから
		勉強始めた	勉強し始めた
		誰でも体罰される経験がある。	誰でも体罰を受けた経験がある。
		週末に練習しろと思います。	週末に練習しようと思います。
		旅行ツアーに参加しなくて、自分で旅行するのがもっと面白い…	旅行ツアーに参加しないで、自分で旅行する方がもっと面白い…
テンス		1年半くらい日本語を勉強して、そのイメージは変わったというより、もっと日本人を知るかもしれない。	1年半くらい日本語を勉強して、そのイメージは変わったというより、もっと日本人の姿(というもの)を知ったかもしれない。
		多分、私は女だから、走らせるより、テキストの内容を書かせるのが多い。	多分、私は女だったから、走らせるより、テキストの内容を書かせるのが多かった。
		先生に罰を与えられた時、恥ずかしかったし、泣きたくてならない。	先生に罰を与えられた時、恥ずかしかったし、泣きたくてならなかった。
		危ないですから、見る時、速く…	危ないですから、見た時、速く…
		私は今、もう大学生でした。	私は今、もう大学生です。
		成績のために打たれる経験はあまりない	成績のために打たれた経験はあまりない
		立たせられるのは何回かぐらいある…	立たせられたことは何回かある…
		ハリー・ポッターは頭が切れるので、いつも最後に相手が倒された。	ハリー・ポッターは頭が切れるので、いつも最後に相手が倒される。
		昔住んでいる家は、…	昔住んでいた家は、…
		本当に痛かったので、全然座れない。	本当に痛かったので、全然座れなかった。
		気持ち悪かったと思いました。	気持ち悪いと思いました。
	アスペクト	た形 / ている	大人はもし変な感じがしたら、すぐ休憩とかするのに対して、子供は多分、そんな感じが弱いので、気がいたら、もう日射病になったと私は思う。
…今、…自殺人口がだんだん増えて来ました。			…今、…自殺人口がだんだん増えて来ている。
辞書形 / ている		今の家はもっと広く感じられている。	今の家はもっと広く感じられる。
		文房具屋で売られるのをよく見かける。	文房具屋で売られているのをよく見かける。

(た 形 / てい た)	私は日本語学科で勉強するのに対して、Kさんは情報管理学科で勉強する。	私は日本語学科で勉強しているのに対して、Kさんは情報管理学科で勉強している。
	自然もあまり破壊されない。	自然もあまり破壊されていない。
	…聞いたので、ずっと日本へ行ってみたかった。	…聞いていたので、ずっと日本へ行ってみたかった。

「文型」の誤用は表現意図とずれがある文型の誤選択などの誤用が観察できた。たとえば、「私と彼女が友達になるきっかけはどちらも日本語を勉強するのが好きだ。」という文は「きっかけは～ことです」のような連体修飾（主語は～（名詞こと）です）の文型で表現できる。この文型なら、「読本」でも「会話」でも初級<sup>18</sup>段階で学習済みのものである。テキストには「私の夢は～（する）ことです」や「私の趣味は～（する）ことです」のような例文がよくあげられているが、「きっかけは」となると、どうもこの「～ことです」の連体修飾の文型を想起できなかつたらしい。これは学習者が文型をうまく応用できない例の1つである。ちなみに、筆者が長年日本語教育に携わっている経験からすれば、中国語母語話者にこの文型を教授する際、中国語で表すと「我的興趣是看电影」や「我的梦想是当总统」のように日本語で動詞の後ろに用いる「こと」が不要なため、理解・納得してもらうまで工夫して説明する必要がある。

また、表四「文型の選択」に「はず」と「べき」における混同の誤用も、両者とも中国語で「應該」と訳せるからである。

なお、仮定を表わす「たら」「ば」と「と」の区別と、「なくて」と「ないで」の使い分けは多くの文法書によく取り上げられる項目で、中国語母語話者だけでなく、外国人が日本語を学ぶ時常に問題となっているようだ。

一方、「テンス」の誤用はほとんど過去のことについての叙述でありながら、学習者が非過去形で表現したものである。このような誤用は、中国語では過去・非過去が文脈ではさほど目立たないから生じたものだと考えられる。

他方、「アスペクト」の誤用は、「ている」形と深くかかわっていることが分かった。

上記の文法に関する誤用のほとんどは学習者が既習した内容に関するもので、誤用が生じたのは習熟度が足りないことが大きな要因である。

<sup>18</sup> 上記の該当学科で使用されている教材のⅡに入っており、1年生の下半期で学習済みの内容であった。



## 3. 2. 4 「表現」の誤用

今回あつめた学習者が犯した「表現」に関する誤用は、「添加、削除、他の表現」に分類できる。次表（表五）の通りである。

表五

	誤	正
添加	その時日本であちこちにハサンムな男性が <u>いる</u> から、写真を撮りたいと思っている。	その時日本であちこちにハンサムな男性が <u>いるだろう</u> から、写真を撮りたいと思っている。
	誰にも一番仲のいい友達がいる <u>ではないか</u> と思う。	誰にも一番仲のいい友達がいる <u>の</u> ではないかと思う。
	子供の時にそんな経験は誰でも一度や二度ある <u>のではない</u> だろうか。	子供の時にそんな経験は誰でも一度や二度は <u>ある</u> のではないだろうか。
	なぜなら、…という点では共通している。	なぜなら、…という点では共通している <u>からだ</u> 。
	これはよくないことを知っている。	これはよくない <u>という</u> ことを知っている。
	彼女の <u>真面目</u> を学ぶ	彼女の <u>真面目さ</u> に学ぶ
	日本は <u>どんな国</u> を確かめたい 彼は突然 <u>私</u> に歩いてきて…	日本は <u>どんな国か</u> を確かめたい 彼は突然 <u>私の方</u> に歩いてきて…
削除	口だけ <u>勧める</u> の方が子供の心にも傷付けられないということだ。	口だけで <u>勧める</u> の方が子供の心 <u>も</u> 傷付けられないということだ。
	「ハリー・ <u>プッター</u> 」というの本	「ハリー・ <u>ポッター</u> 」という本
	…というの <u>イギリス人</u>	… <u>というイギリス人</u>
	<u>立たせられるのは何回か</u> ぐらいある…	<u>立たせられたことは何回か</u> ある…
	ほとんど手を打たれるの <u>が多い</u> 。	ほとんど手を打たれる。 <u>(または“手を打たれることが多い”)</u>
	<u>聞いたこと</u> の通りだ。	<u>聞いた</u> 通りだ。
	第七冊が <u>今年に</u> 出版する	第七冊が <u>今年</u> 出版される
	一生でも忘れない	一生忘れない
	その人は <u>公開性な場合</u> で謝らなければならない	その人は <u>公開の場</u> で謝らなければならない
	私は毎日夜 <u>遅く</u> 、大体 12 時半まで寝る…	私は毎日夜 <u>遅く</u> 、大体 12 時半に寝る…
ストーリーの内容は…	ストーリーは <u>(または“内容は…”)</u> …	
順番	自分で一人何をしようと思う時…	自分一人で何かをしようと思う時…
	台湾ではいろいろな <u>体罰の種類</u> がある。	台湾ではいろいろな <u>種類の体罰</u> がある。
	試験の <u>点数</u> を 60 点以下取れば	試験で 60 点以下の <u>点数</u> を取ったら

句 読 点	…と思う、台湾…	…と思う。台湾…
	私は毎日夜遅く、大体 12 時半まで寝る…	私は毎日夜遅く、大体 12 時半に寝る…
他 の 表 現	クーラーをつけて、寝る…	クーラーをつけて寝る…
	高校生になってから、日本人のイメージは「何の事も真面目だし、人に対して親切だが、性格がちょっと暗い」 <u>の</u> ような印象になってきた。	高校生になってから、日本人のイメージは「 <u>何事にも</u> 真面目だし、人に対して親切だが、性格がちょっと暗い」というような印象になってきた。
	たまには喧嘩 <u>でも</u> 、私は一生を通して、友達を大切にしようとして <u>いる</u> 。	たまには喧嘩 <u>することがあっても</u> 、私は一生を通して、友達を大切にしようと思 <u>っている</u> 。
	ストーリーの内容は…	ストーリーは(または“内容は…”)…

「添加」についてはたとえば、「子供の時にそんな経験は誰でも一度や二度はあるのではないだろうか。」という副助詞などを添加するようなものがある。

「削除」は余計なものを削って、簡潔かつ正確な表現にしたものである。

「他の表現」はたとえば「ストーリーの内容は…」を、「ストーリーは…」または「内容は…」のどちらかで十分表現できるようなものがあげられる。

語順に関しては今回観察できた誤用はいずれも中国語の語順にして訳したら通常の文となるもので<sup>19</sup>、中国語の発想による間違いである。

### 3. 2. 5 先行文献で検討された、中国人による誤用とのかかわり

この節ではまず先行文献で論じられている誤用と本研究で観察された誤用とをあわせて検討する。このような検討を通して、本研究で見られる中級日本語学習者の作文に見られる誤用の傾向、原因及び改善策を考える。

#### (1) 連体修飾構造における「の」の誤用

連体修飾構造における「の」の誤用について「中国人の典型的な誤用」とされることがあるが<sup>20</sup>、「きちんと教えれば、中国人に限らずこのような誤りは

<sup>19</sup> ‘自分で一人何をしようと思う時…’は「自己一個人想做點什麼的時候」、‘台湾ではいろいろな体罰の種類がある。’は「在台湾有各種體罰的種類」、‘試験の点数を 60 点以下取れば’は「若考試的成績在 60 分以下的話」という中国語の語順による発想で犯した誤用である。

<sup>20</sup> 実はこのような誤用は中国人以外の外国人ばかりでなく、日本語を母語(L1)とする

しないものである。中には、中国人はこういうまちがいをするんです、と自覚しながら平気でまちがった言い方をしている学生もいるが、これは、教師がきちんと教えなかったからである。」という意見もあった<sup>21</sup>。ただし、筆者の長年の教学経験からすると、間違いやすい所に関して、教授する側は説明にしる、練習にしる、強調しすぎるほど強調している。学習者も最初に学習した時にはきちんと理解しており、即座の、または学習後それほど期間をおかないテストでは正解できるのだが、時間が経過すると、往々にしてそのような誤りを犯すのである。そのような時、教師がちょっと注意したら、学習者はすぐ気付いて、その場で直せるのである。それは宮崎 (1978) または馮 (2000) が指摘した「うっかりした誤用」に当てはまるだろう。

このような例として、本研究における学習者の作文に、「動詞＋名詞」の間に「の」を入れた「勧めるの方が…」というような間違いなどが見えた。ただし、全体においてこのような連体修飾の「の」における誤用はさほど多くはなかった<sup>22</sup>。

## (2) 漢語使用の誤用

漢語使用の誤用に、前述したように表記の間違いや読み方があげられる。また、漢語そのものが名詞で、「する」を付け加えると動詞になる、さらに形容詞の性格を有しているものもあるので、品詞の誤用も見られる<sup>23</sup>。なお、たとえば同じ品詞でも、「突然」と「突然に」や、「去年」と「前年」の混同も見られた。ちなみに、中国語の「去年」と「前年」はそれぞれ日本語の「去年」と「一昨年」に相当し、さす内容が全く異なっている<sup>24</sup>。

前述した品詞の誤用以外、他動詞である「処罰する」における誤用が見られた。「先生は学生を処罰する」を「先生は学生に処罰する」にしてしまい、他

---

幼児の習得過程にも観察されるものである。その原因などについての論考が多かったが、未だに有力な定説が現われていない。詳しくは高橋 (2004) を参照。

<sup>21</sup> 吉川 (1997 : 12)。

<sup>22</sup> 詳細は後掲表六を参照。

<sup>23</sup> たとえば今回の調査においても、そのような不適切な使用例として「不足」(水を取るのが不足だったら、健康上は悪い。)という漢語の誤用が見られる。

<sup>24</sup> 「去年」は文化庁 (1978) では「日中両国語における意味が同じか、またはきわめて近いもの」(Same) に帰属されているのに対して、「前年」は収録されていない。

動詞の目的語を、動作・作用の行なわれる対象・相手を表わす「に」格と間違えた例である。

### (3) 副詞の誤用

市川(2000)は「あまり」「いちばん」などの副詞 50 語について、中国大陸や台湾の学習者が犯した誤りを含めて詳しく分析している。一方、台湾人中級日本語学習者の作文例では、全体的に副詞の使用が少ないと言われている<sup>25</sup>。本研究の調査では、副詞の誤用に、陳述副詞である「あまり(…ない)」「だんだん(…なる)」、数詞の他、語形が似ている「また」と「まだ」や、形容詞の連用形である“楽しく遊べる”を‘楽しい遊べる’にしてしまったというような例もあった。また、誤用例‘ある日、私はもう風邪をひきました。’は中国語「有一天我已經感冒了。」に起因したものである。

### (4) 接続詞

今回の調査で接続詞の誤用は‘小学生の時、国語テストの後で、漢字を間違えたら、10 回ぐらいの罰として書かせた。それともテストの点数があまりよくない時…’という不適切な「それとも」という 1 例しか見られなかった。「それとも」「また」と「或いは」のいずれも中国語の「或者」に訳すことができ、日本語としてもよく類義語とされていることが関係していると思われる<sup>26</sup>。

## 3. 2. 6 台湾人中級日本語学習者の作文に見られる誤用

前節(3. 2. 5)では本研究であつめた誤用例について、先行研究で取り上げられた「連体修飾構造「の」に関する誤用」、「漢語における誤用」、「副詞の誤用」、「接続詞の誤用」という 4 つの項目から見てきた。このような誤用は今回の調査でも見られた。

ところで、誤用を計上するだけでなく、誤用と正用との比率を調べることも学習が困難な項目かどうかを判断する基準の 1 つとなる<sup>27</sup>。したがって、本研究では観察された上記の誤用とその正用との関係を、下表で数量的に示す。

<sup>25</sup> 盧(2007: 76)。

<sup>26</sup> たとえば『必携 類語実用辞典』(三省堂、<http://dic.yahoo.co.jp/>)や田忠魁他(1998)など。

<sup>27</sup> たとえば迫田(2002: 159)。

表六

	指示詞ソ/ア(文脈)		陳述副詞				助詞			
			あまり		だんだん		は/が		に/で/を(場所)	
	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤
個数	94	6	21	1	16	1	614	50	118	8
%	94	6	95	5	94	6	92	8	94	6

	文法								削除	
	たら/ば/と		テンス(～た)		～ている		～ていた		連体修飾(「の」)	
	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤
個数	91	13	251	30	118	16	27	6	1070	51
%	88	13	89	11	88	12	82	18	95	5

この表から、文法の各項目<sup>28</sup>について誤用の占める割合が高い<sup>29</sup>ことが分かり、これらが中級学習者にとって難しい項目であることが明らかにされた。

また、今回の調査で観察できた誤用には母語の影響が顕著である。母語からの影響は表記、語彙、文法(文型、テンスなど)、語順、などいろいろな面に渡っている。これは本研究における条件のもとで日本語を学習してきた台湾の学習者は作文を作成するのに、かなり母語に頼りにしているということにつながっていると言えるだろうか。この母語からの影響を如何に日本語らしい日本語に転移させるかというのがこの段階の学習者にとっての重要な課題となる。より多くの自然な(生の)日本語の文章を読ませるのが有効な手段であろう。

あるいは、既習の項目に関する誤用も今回の調査では少なからず見られた。このようなものに、習ったばかりの時は、一旦「身に付けた」ように見えても、時間が経つに連れ、「つい、うっかり間違ってしまった」ものがある。たとえば、漢字の表記、語の綴り、自・他動詞、助詞(たとえば場所を表わす「に」「で」「を」の使い分け)、連体修飾における不要な「の」の付加、文型(選択と接続とともに)、過去形(テンス)など、数多くある。教師の立場にすれば、あってはいけない許せない誤りであろう。このような誤用については、随時確認してもかまわないし、むしろその必要があるかと思われる。

<sup>28</sup> 表六で網掛けを施し、誤用が該当項目における全使用されている回数に占めるパーセンテージの数字をゴジック体で示す。

<sup>29</sup> いずれも10%を越えている。

それに対して、一応既習なのだが、教授した当時から、学習者になかなか理解してもらいにくかった項目もある。たとえば、文脈指示の場合の「ソ」と「ア」<sup>30</sup>、助詞「は」と「が」の使い分け、仮定を表わす「たら」「ば」と「と」、アスペクトの「ている」などがそれに当たる。これらの問題は台湾人学習者だけでなく、他の外国人が日本語を学ぶ時にもしばしば問題となる誤用のようだ<sup>31</sup>。しかし、教育の現場では、カリキュラム全体の進度などの都合で、特定の項目だけに時間をかけすぎることができない、という現実がある。したがって、これらのものをコースデザインにおいてどう位置付けるかが重要な課題となる<sup>32</sup>。

誤用訂正については、正に迫田（2002：102-103）が指摘したように、「現在の授業内容」、「誤用訂正にかける時間」など、様々な点について判断をした上で行なわなければならない。

#### 4. まとめ

今回は、主に教室指導環境で日本語を学習してきた台湾人中級学習者の作文に見られる誤用について検討した。その具体的な傾向、母語とのかかわり、既習事項に関する誤りの状況が大体把握できたと思われる。本研究の調査結果を日本語教育に提言できたら幸いである。

#### 5. 参考文献

- 石橋玲子（2002）『第2言語習得における第1言語の関与—日本語学習者の作文産出から—』風間書房  
 市川保子（1997）『日本語誤用例文小辞典』凡人社  
 市川保子（2000）『続・日本語誤用例文小辞典—接続詞・副詞—』凡人社  
 王敏東（2001）「台湾における大学作成の日本語教材について」『前田富祺先

<sup>30</sup> 一般に初級で導入される場所指示はさほど問題になっていないのが普通である。

<sup>31</sup> たとえば市川（1997）でも台湾人以外の数多くの外国人によるこれらの誤用例があげられている。

<sup>32</sup> 今回調査を受けた学習者のクラスの場合は、2年生の文法（1年間の必修科目で、4単位）という授業で、本研究で検討した「陳述副詞」「助詞」、「文法」の3項目がカリキュラム（いずれも2～3週間のあわせて4～6時間）に入れられていることが確認できた。

生退官記念論集 日本語日本文学の研究』

河村静江 (2007) 「日中同形語のコロケーションに関する誤用及びその習得状況—「獲得」「発揮」「実施」「提出」を例として—」、銘傳大學 2007 國際學術研討會「應用語文教育的理論與實際」

黄淑妙 (2007) 『テ形に接続する補助動詞の研究—文法化と誤用分析を中心に—』致良出版

吳麗君他著・西川和男編訳 (2005) 『中国語の誤用分析—日本人学習者の場合—』関西大学出版部

迫田久美子 (2002) 『日本語教育に生かす 第二言語習得研究』アルク

佐治圭三 (1992) 『外国人が間違いやすい 日本語の表現の研究』ひつじ書房

高橋織恵 (2004) 「連体修飾構造の習得過程に関する研究最前線—「の」の過剰使用と脱落を中心に—」『第二言語習得・教育の研究最前線—2004 年版—』日本言語文化学会

武部良明 (2005) 『必携 類語実用辞典』(新装版) 三省堂  
<http://dic.yahoo.co.jp/>

陳淑娟 (2006) 「作文における語彙習得についての一考察—使用語数と語類の変化を中心に—」『東吳日語教育學報』29、pp29-63

陳淑娟 (2007) 「作文における漢語語彙の習得についての考察—LARP at SCU のデータに基づく事例研究—」『東吳大学日語文学系 2007 年日語教學國際會議』

田忠魁・泉原省二・金相順 (1998) 『類義語使い分け辞典』研究社

鄧美華 (2005) 「日本語の自他両用漢語動詞の実態—日中同形語を中心に—」『南台応用日語學報』5号

鄧美華 (2006) 「連体修飾構造「の」に関する誤用分析—日本語学習歴5年(含む)以上の台湾人日本語学習者の作文を中心に—」『南台応用日語學報』6

文化庁 (1978) 『中国語に対応する漢語』大蔵省印刷局

馮富榮 (2000) 『日本語学習における母語の影響—中国人を対象として—』風間書房

水谷信子 (1994) 『実例で学ぶ誤用分析の方法』アルク

明治書院企画編集部編 (1997) 『日本語誤用分析』明治書院

森田良行 (1986 (初版)) 『誤用文の分析と研究—日本語学への提言—』明治書院

- 山崎恵 (2006) 「中国人母語話者の作文に見られる誤用」2006年全国応用日語  
学術研究会專題講演
- 吉田妙子 (1999) 「副詞「もう」が呼び起こす情意性—中国語話者の「もう」  
の使用に於ける母語干渉—」『日本語教育』101
- 林玉恵 (2002) 「字形の誤用からみた日中同形語の干渉及びその対策—台湾人  
日本語学習者を中心に—」『日本語教育』112
- 盧月珠 (2007) 「LARP at SCU における副詞の習得についての考察—初級から  
中級までの作文データを調査対象に—」『東吳大学日文語文学系 2007年  
日語教学国際会議』